

令和6年4月12日 市政記者クラブ提供資料

鈴鹿市有形文化財の指定について

- 1 名称 司馬江漢「二見浦図」
- 2 指定種別 有形文化財（美術工芸品-絵画）
- 3 製作の年代 天明8年～寛政元年（1788-89）
- 4 作者 司馬江漢（1747-1818）
- 5 品質・形状 扁額 紙本油彩
- 6 寸法 本紙 45.6×90.6 cm
- 7 画賛・奥書・銘文等 題記 「De Fu ta mi ga Wu la.」
落款 「日本創工江漢司馬峻」
「司馬峻印」（白方）「君岳」（白方）
- 8 伝来 神戸藩本多家より神館飯野高市本多神社へ奉納されたと考えられる
司馬江漢は、長崎遊学の途中で伊勢に立ち寄り、本多忠裔と神戸城で会う
（「西游日記」天明8年8月2日）
- 9 指定年月日 令和6年3月21日
- 10 所有者 神館飯野高市本多神社 宮司 鈴木信大（鈴鹿市神戸二丁目18番28号）
- 11 管理者 鈴鹿市（鈴鹿市神戸一丁目18番18号 郷土資料室寄託）
- 12 公開について
場 所 大黒屋光太夫記念館
〒510-0224 鈴鹿市若松中一丁目1-8 TEL・FAX 059-385-3797
会 期 公開中～7月15日（月・祝）
開館 10：00 / 閉館 16：00
休館日：月曜日（休日の場合は開館）・火曜日・第3水曜日
入場料 無料
【問い合わせ先】 文化スポーツ部文化財課 担当：大窪・代田 電話番号 059-382-9031

市指定への評価 勝盛典子氏(*)

*前中之島香雪美術館館長・元神戸市立博物館学芸員

南蛮美術・近世西洋絵画の第一人者で「近世異国趣味美術の史的研究」等の著書がある。

・製作年代—江漢の油彩風景画のうち最初期か

本作の製作年代については、江漢が実際に見た風景に最も近い描写であることなどから、3件の二見浦図（油彩画）のうち最も早い時期の製作との指摘があるものの、寛政年間（1789～1801）との見解が一般的である。しかし、（1）天明7年頃から一定期間使用されているローマ字式オランダ文字の題記「De Fu ta mi ga Wu la.」と款記「日本創口」の併用、（2）細い墨線を重ねて表現する波や岩は、寛政年間の油彩画作品より天明7年頃の銅版画作品と近い表現である（3）初期の作品（天明年間）と想定される紙本油彩作品のひとつである（4）後述する神戸藩主本多忠奮との関係、などから、長崎遊学中あるいは帰国直後の作品、すなわち天明8年～寛政元年（1788～89）とほぼ限定でき、江漢の油彩画作品中最初期の稀少な作品と評価される。

・江漢の奉納絵馬として特異な作品

江漢は自身の作品を奉納額（大額）として掲げたことで知られ、「相州鎌倉七里浜図」（寛政8 神戸市立博物館蔵）や「木更津浦之図」（寛政12 巖島神社蔵）が現存するが、本作は、「蘭画銅板画引札」（文化6）に見える小額として唯一確認できる貴重な作例である。さらに、神戸宗社には本多忠奮が寛政元年に奉納した額などが現存しており、本多家と神戸宗社との親密な関係が知られる。また、本作がこれらの本多家からの奉納額と類似した様式であることや、江漢が引札に実例として挙げていないことから、本作は本多家から神社に奉納されたと考えられ、江漢が自己顕示のために後に手がける奉納額とは一線を画す。特に藩主との関係が深い本作品は、鈴鹿市が地域の文化財として評価するに相応しいと考える。また、神戸藩・菰野藩をはじめこの地域の文化人と司馬江漢の交流について新たな知見を示す資料としても貴重である。

・奉納絵馬として元装が遺っている

明治11年に額の修理を行っているが、作品自身に手は入っていない。掲示されていた絵馬が落下するなどして額の部分が大きく破損したため、旧額を生かすためにそれを支えるかたちで新しい額が取り付けられたと想像され、墨書があったであろう裏板が遺棄された可能性が高いが、奉納時の元装をとどめているため、修理にあたっては旧額を生かすことが肝要かと考える。



二見浦図 扁額全体



本紙